島根県立大学短期大学部出雲キャンパス
研究紀要　第６巻，41－46，2011

養成講座を通して
受講生が考えた家庭教育サポーターの役割

高橋恵美子・吾郷美奈恵・岸本　　強*

概　　要

出雲市と大学が協働して“家庭教育サポーター養成講座”を開催した。１回の講座は90分または180分で，講義形式５回と施設での体験学習３回を含め９回の講座とした。最後の講座で“家庭教育サポーターの役割”についてのラベルワークを行った。

第９回講座の時に受講生が記述したラベルをデータとして用い，研究者が「受講生が考えた家庭教育サポーターの役割」をテーマにラベルワークをした。その結果，受講生が考える家庭教育サポーターの役割として，「サポートする具体的な内容」,「サポーターとしての成長」,「サポートするための環境整備」, 実際にサポートするときに「活用するツール」を抽出した。

キーワード：家庭教育サポーター，養成講座，子育て支援

Ⅰ．はじめに

児童虐待の増加や校内暴力，不登校といった子どもを取り巻く様々な問題が深刻化している。こうした問題の背景には，核家族化や少子化, 都市化の進行がある。これらの進行により，地域社会の連帯感やつながりが希薄となり，地域社会で子育てやしつけについての情報やコミュニケーションが交わされる機会が減少している。そのため，子どもの教育やしつけに対する悩みや不安を抱えている親が増えていることがあげられる(酒井, 1999)。この状況を受けて，改正教育基本法第10条に，国及び地方公共団体は家庭教育を支援することが示され，文部科学省においては家庭教育手帳を作成し活用を促すなど，地域で家庭教育支援の必要性が高まっている（上野，2010)。

このような社会的背景のもと，平成22年度に出雲市は，出雲科学アカデミーの専門講座として“家庭教育サポーター養成講座”を新たに計画した。これは子どもたちの成長する場を学び，地域ぐるみで家庭教育を支援するまちづくりを目指し家庭教育サポーターとして未来を担う子どもたちへのサポートができる人材を養成することを目的にしている。“家庭教育サポーター養成講座”を実施するにあたり，平成21年度に出雲市と包括協定した本大学が，専門的立場から支援する形で協働した。

本研究は，本講座のプログラムが地域における子育て家庭を支援する家庭教育サポーターの養成に有効であるかを評価する一つの資料として,“家庭教育サポーター養成講座”の受講生が，講座を通して家庭教育サポーターの役割をどのように考え理解したのかを明らかにするものである。

Ⅱ．家庭教育サポーター養成講座の概要

１．受講生

出雲科学館が募集した『出雲科学アカデミー専門講座』に応募があった出雲市民27名

*島根県立大学短期大学部松江キャンパス
本研究は平成22年度北東アジア地域学術交流研究助成金による。

表　家庭教育サポーター養成講座プログラム

回	時間	内　　容
第１回	2	【開講式】 家庭教育サポーターの役割（講義） ・子育てを取り巻く社会の変遷と現状
第２回	2	家庭で育てる家庭教育（講義） ・成長発達と食 ・食育とは
第３回	2	遊びで育てる家庭教育（講義・演習） ・成長発達と遊び ・遊びとは
第４回	2	子どもの体と心を育てる家庭教育（講義） ・子どもの病気の特徴と手当 ・子どもの事故の特徴と予防
第５回	4	保育園に行ってみよう（体験学習））
第６回	4	小学校に行ってみよう（体験学習）
第７回	4	子育て社会資源の探検（体験学習）
第８回	4	人を育て自らも育つ（講義）
第９回	4	家庭教育サポーターの役割（グループワーク） 【閉講式】修了証の授与（講座の半分以上を出席した受講生）

２．目的

子どもの成長発達と健康に必要な食事や遊び，身体と心を育てる家庭教育について理解する場を提供し，出雲市の“家庭教育サポーター”として地域に貢献できる人材を養成することである。これにより，地域ぐるみで家庭教育を支援するまちづくりをめざしている。

３．講座内容およびプログラム（表）

開講期間は平成22年７月から12月の半年間で，月に１～２回開催した。講座は大学の授業をイメージし90分を約２時間で考え，１回の講座を２時間または４時間で計画した。全９回の講座合計時間は28時間で，大学での授業１単位に相当する。

講座の前半は講義を中心に子育ての現状をレクチャーし，家庭教育サポーターとして必要な知識を深めた。後半には３回の施設見学や体験学習を計画し，実際の子どもの様子や子育ての現状が理解できるよう計画した。具体的には，市内の保育所や小学校および子育てに関する社会資源として，子育て支援センターや児童クラブ，各教育関係施設を視察した。最終講座では，受講生を２グループに分け，「家庭教育サポーターの役割とは」というテーマでラベルワークをした。

最終回の終了後，講座の半分以上を出席した受講生に対し，出雲市より修了証書が授与された。

Ⅲ．研究目的

出雲市と島根県立大学短期大学部とが協働して開催した“家庭教育サポーター養成講座”の受講を通して，受講生が考えた家庭教育サポーターの役割を明らかにすることである。

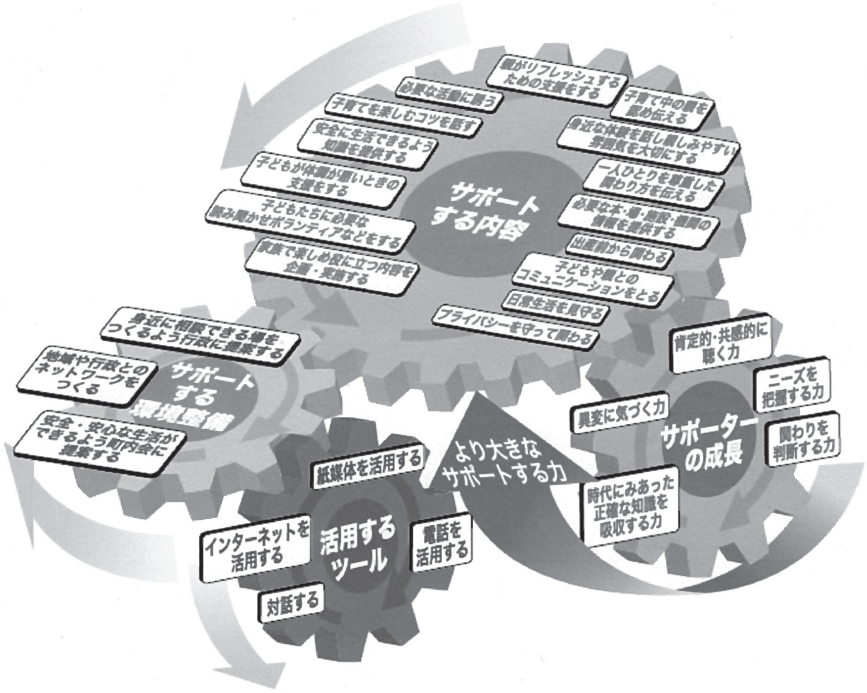

図　受講生が考えた家庭教育サポーターの役割

Ⅳ．用語の定義

家庭教育サポーター：子どもが生きていく上で必要なライフスキルを身につけるために援助が必要な家族に寄り添い，子どもとその家族の可能性を広げるためにサポートする人材。

Ⅴ．研究方法

１．対象

“家庭教育サポーター養成講座”第９回講座で行ったラベルワークの際に，受講生が記述したラベル。

なおラベルを記述した受講生は，全講座の半分である４回以上の講座に参加し，研究参加に同意が得られた者である。

２．データ収集方法

第９回講座で実施した家庭教育サポーターの役割を考えるラベルワークにおいて，「家庭教育サポーターとして“できること”“しないといけないこと”“期待すること”」について受講生に一義一文でラベルへの記述を求めた。

３．分析方法

「受講生が考えた家庭教育サポーターの役割」をテーマに，研究者３名の合意のもとにラベルの示す意味内容の類似性に着目しながらグループ化，空間配置し，図解を作成した。ラベルの解釈と整理においては，研究者３名により真実性と妥当性を検討しながら進めた。

４．倫理的配慮

受講生に対しては，初回講座の時に，研究の目的，方法，プライバシーの保護の方法，研究参加への自由意思の尊重，学会等への公表について文書と口頭で説明した。第９回講座の開始時に上記内容とラベルを研究に使用することについて再度口頭で説明し，了解が得られた人がワークに参加している。また，本研究は本学の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

Ⅵ．結　　果

提出のあったラベルは合計67枚であった。67枚のラベルを意味内容の類似性に着目して分類した結果，26のサブカテゴリーに分類された。そして，26のサブカテゴリーは，Ａ～Ｄの４つのカテゴリーに集約できた。以下カテゴリーは

【】でサブカテゴリーは〈〉で示す。

家庭教育サポーターの役割を図解に示した。(図)家庭教育サポーターの役割は，大きくA【サポートする内容】B【サポーターの成長】C【活用するツール】D【サポートする環境整備】の４つのカテゴリーから構成されていた。図解は４つのカテゴリーを４つの歯車で表している。４つの歯車が必要なところで上手くかみ合い，A【サポートする内容】の大きな歯車がスムーズに廻るようにすることが家庭教育サポーターの役割であることを示している。具体的には，A【サポートする内容】を実践していくことで，B【サポーターの成長】がはかられること，そしてサポーターの成長はより大きなサポートする力になることが考えられた。また，C【活用するツール】は様々なツールを上手に活用することで，D【サポートする環境整備】を促している。そして，B【サポートする内容】をよりスムーズに動かすためにはD【サポートする環境調整】を進めることが必要であることを示している。

１．サポートする内容

A【サポートする内容】は，実際に家庭教育サポーターとして，子どもを抱えており家庭教育の支援を必要としている家族に，具体的にどのようなサポートができるのかについてのカテゴリーである。具体的には〈日常生活を見守る〉などのように直接的ではないが常に意識して見守ることや，〈必要な本，場，期間の情報を提供する〉〈安全に生活できるよう知識を提供する〉〈一人ひとりを尊重した関わり方を伝える〉〈子育てを楽しむコツを話す〉などの知識や情報の提供や，〈親がリフレッシュするための支援をする〉〈家族で楽しめ役に立つ内容を企画・実施〉〈必要な活動に誘う〉〈子どもが体調が悪いときの支援をする〉〈子どもたちに必要な読み聞かせボランティアなどをする〉などの親や子どもに対する具体的な活動の企画や実施など15のサブカテゴリーから構成された。

２．サポーターの成長

B【サポーターの成長】は〈時代にみあった正確な知識を吸収する力〉〈異変に気づく力〉〈肯定的・共感的に聴く力〉〈ニーズを把握する力〉〈関わりを判断する力〉など，サポーターがよりよいサポートをするために身につけなければならない資質を示している５つのサブカテゴリーから構成された。

３．活用するツール

C【活用するツール】は〈インターネットを活用する〉〈紙媒体を活用する〉〈電話を活用する〉〈対話する〉など，サポートするときに活用できるツールを示す４つのサブカテゴリーから構成された。

４．サポートする環境整備

D【サポートする環境整備】は〈安全・安心な生活ができるよう町内会に提案する〉〈地域や行政とのネットワークをつくる〉〈身近に相談できる場を作るよう行政に提案する〉など，よりサポートをしやすくするための環境への働きかけを示す３つのサブカテゴリーから構成された。

Ⅶ．考　　察

受講生に対し，家庭教育サポーターとして“できること”“しないといけないこと”“期待すること”について記述を求めた結果，サポートする内容，サポーターの成長，サポートする環境整備，活用できるツールの４つのカテゴリーが抽出できた。

家庭教育サポーターとして，実際に子どもと家族にサポートする内容は，子育て中の親への直接的な支援，子どもへの直接的な支援，親との関係作りのための支援，必要な情報や知識の提供，相談にのるという支援，広く子育て家族を対象とするような支援などが挙げられた。このように多様なサポート内容が抽出された理由は，参加者が様々な年代から構成されていたため，子育てを終えた年代，現在子育て中の年代の両方の視点からその役割を考えることができたためと思われる。家庭教育サポーターとしての役割は，経験者としてのアドバイザー的役割と，共に子育てしている仲間としてのピアサ

ポート的役割があると考える。

今回，家庭教育サポーターの役割としてサポーターの成長が挙げられた。参加者は受講を通して，時代に見合った正しい知識，相手のニーズを把握する力，異変に気づく力，聴く力など家庭教育を支援していくためにサポーターとして身につけていなければならない能力があり，その能力を身につけることもサポーターとしての役割であると考えていた。これは，講義の中で子どもと家族を取り巻く現状を知ったことや，実際の施設訪問などを通して，子どもの現状を体験をとおして学習したことが大きく影響していると考える。

また，直接家族や子どもを支援するだけでなく，家庭教育の支援を必要とする家族が，支援を受けやすい環境を整えることもサポーターの役割として捉えられていた。これは体験学習の中で，子育てに関する社会資源を視察したことにより，サポーターだけでなく様々な資源を使って家庭教育を支援できる地域づくりの必要性を理解されたためと考える。

家庭教育サポーターが実際に家族を支援したり，環境を整えるための提案をしたりする場合，色々なツールを使って支援していくことの必要性が示されていた。家庭教育サポーターとして家族と良好な関係を持ちながら支援していくためには，対面で関わった方がよい場合や，電話やメールなど対面でない関わりが良い場合など様々な状況が考えられる。それらのツールを上手に使い分けることで，相手の家族に負担がないように関わりを持つことができると考えられていた。

住民主体型の育児ネットワークは，専門機関に相談するまでもない些細な悩みに対してより柔軟に対応でき，また多様な経歴を伴った住民による多元的なサポートが供与される点で，乳幼児をもつ母親の日常生活を支えるものであり今後ますます重要である（中村，2005）と中村は述べ，その体制について，育児サポートを行う人材の育成・研修が重要であると思われる（中村，2005）としている。今回の“家庭教育サポーター養成講座”は地域おける子育て家族を支援する人材養成に有効であったと考える。

Ⅷ. おわりに

出雲市との協働による本講座は平成22年度で終了した。しかし，地域の地縁的繋がりが希薄な現代においては，本講座のように地域住民が気軽に参加でき，子育て家庭を支援することを学ぶ機会は非常に重要である。そこで，平成23年度は本講座を本学の公開講座に位置づけ継続していくこととなった。今後も引き続き講座の評価をし，住民主体の地域で子育てをサポートするまちづくりをめざした取り組みを継続していきたい。

文　献

藤原慶二（2010）：地域福祉と子育て支援　ネットワークの観点から，関西福祉大学社会福祉学部研究紀要，13，11-18.

中村真弓（2005）：地域における育児ネットワークに関する研究，九州大学大学院教育学コース院生論文集，５，105-118.

酒井亮爾（1999）：中学生の不登校に関する事例報告，愛知学院大学人間文化研究所紀要，14，267-290.

上野恵子，穴田和子，浅生慶子，内藤圭，竹中真輝（2010）：文献の動向から見た育児不安の時代的変遷，西南女学院大学紀要，14，185-196.

The Role of Home-education Supporter Perceived by Participants

Emiko TAKAHASHI, Minae AGO and Stuyoshi KISHIMOTO

Key Words and Phrases：Home-education Supporter, course, Child Care Support